

【中区】令和4年第2回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和4年6月8日 14時00分 ～ 15時00分
場 所	中区役所7階 703会議室・704会議室
出席者	<p>【座 長】伊波俊之助議員</p> <p>【議員：2名】松本研議員、福島直子議員</p> <p>【中区：27名】小林英二区長、菅野孝義副区長、秋元政博福祉保健センター長、越川健一福祉保健センター担当部長、味上篤中消防署長、中山昭中土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和4年度中区個性ある区づくり推進費自主企画事業執行計画について</p> <p>2 その他</p>
発 言 の 要 旨	<p>議題1について</p> <p>福島議員：地域防災力向上事業につきまして、予算検討の時にも申し上げた記憶がございますが、共同住宅は、区民の方が半数近く、もしくはそれ以上お住まいの住居形態でありまして、こちらの防災を強化していくということは非常に大切なので、是非お願いしたいと申し上げていたかと思いますが、このように取組を具体的に少しずつ進めていただいていることは、大変ありがたく思っております。その上で、事前にご説明いただいた時に、少し申し上げたのですが、まずは管理組合や管理会社を対象にした広報等を行っていくということが具体策として取上げられているのですけれども、こうした取組も結構ですが、その際に一律に防災の一般的な情報を流しましても、なかなか住宅の立地、場所、周辺環境、築年数、居住者の構成、規模によって、住民の意識も環境も防災の課題も全く違うのだらうと思っておりますので、是非、分類をした上でグルーピングして、例えば色分けをして、ここは紫色の住宅なので、こんな取組が共通的な課題になるかということ、こちらからある程度想定した上で、何か働きかけをすとか。あるいは課題別にいくつかの住宅を選んで、それをモデルケースとして働きかけをしてみるとか。何か居住者の方と地域と行政の皆さんとが繋がり合うような、情報が共有できる</p>

ような下準備が必要なのではないかなという気がしております。一朝事が起きれば、新しさ古さによっても全然課題が違うのでしょし、また、思ってもみなかった課題で驚くようなことが起きるのだらうと思うのですが、そうした意味でも基本的なマンション・共同住宅の分類を、現状把握をしっかりとした上で特性に合わせた取組をお願いしたいと思っておりますので、ご検討いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

小林区長：共同住宅につきましては、これから建ち上がって新規入居者が入る建物ですとか、あるいは建ち上がってからかなり年数が経っている建物、あるいは地域と比較的色々密にやっている建物等、色々な状況があると思います。区といたしましては、よく言われるように、共同住宅は建物自体が頑丈なので、地震が起きても大丈夫だと思っている方も少なからずいらっしゃると思いますので、具体的に、どのような場所にあるかということにも当然よると思いますので、場所によってどういう危険があるのか。共同住宅は共通して停電のリスクも言われておりますけれども、エレベーター閉じ込めですとか、トイレが使えなくなってしまうとかですね。そういう共通のリスクを知っていただくのと合わせて、色々な共同住宅に関わっていく中で、共同住宅にどのような問題があるのか、そうした特性が類型化されることもあるかと思っておりますので、実際に共同住宅の方々と話していく中で、我々の中でグループ分けみたいなことも考えながら、たくさんある共同住宅に展開していけるような取組を地道にやっていかないといけないと思っておりますので、そこは是非先生に頂いたご意見に即して取り組みたいと思っております。

福島議員：ありがとうございます。そして女性の視点で取り組んだような、同じ課題認識を持つ、あるいは共通の交流がしやすい方々で、住民の側でワーキンググループのようなものを作ったりして提言いただくとか、議論していただくとか、そうしたことも同時にした方が良いのかなと。助けていただく側だけではいけないと思っております。横浜市災害時における自助及び共助の推進に関する条例にあるように、自ら準備をしなくてはいけないと思っておりますので、そうしたグループをお作りいただくことも必要ではないかと思っておりますので、ご検討いただきたいと思っております。引き続き申し上げますが、放置自転車については再三課題は皆さん共有されているところですが、この中で（２）キに保護者向け自転車マナー啓発リーフレット配布ということで、４月から配布しているということですが、具体的にはどのような方法で配布をした、啓発をする機会があ

ったということがありましたら状況を教えていただきたいのですが。

木村地域振興課長：交通安全のリーフレットの配布につきまして、今のところ、交通安全対策について、警察と連携をさせていただきながらしている取組はございます。その中で住民参加の部分はコロナの関係で難しい面もございまして、大きな取組というのは、今年度に入ってから、まだ、それほど多くはできていません。警察署におきましても、キャンペーンとかも、これまで大々的にしていたものがなかなかできなくて、例えばクレイジーケンバンドの横山剣さんをお招きしても、市民の方の前に大々的に出ていただくということもできなくて、少しくローズみたいな形でやらざるを得ないという状況がまだ続いております。コロナの状況が徐々に改善する中で、我々も一生懸命取り組んでいきたいと思っております。

福島議員：動物適正飼育推進事業について少し確認させていただきます。

(2) ウの大鳥小での取組を皆さんに活用するというお話ですが、これも今、木村課長からコロナの状況が変わっていないということをお伺いしましたけれども、そうした中ですが、これも数年前からの取組でありまして、具体的な検討、成果、というものが、何かまとまったものがある、お配りになっているとか、研修しているとか、そのようなことがありましたら確認させてください。

坂井生活衛生課長：災害時のペット同行避難についてマニュアルを作ったり、一時飼育場所や飼育ルールを決めたりして取り組んでいただいている拠点が、既に区内に4拠点ございます。こちらの内容を、まずは共有し、参考にさせていただくことで、まだ取り組んでいられない拠点でも取組のイメージを持っていただきやすくなると思えまして、各拠点ご同意のもと4拠点のうち3拠点のお作りになったマニュアル等をHPに公表させていただいたところでございます。今後、訓練等も現地でやりやすい状況になれば、訓練や運営委員会にもできるだけ参加をさせていただいて、ご説明を進めていければと思っております。

福島議員：分かりました。ありがとうございます。HPをちゃんと拝見しなければいけないことが分かりました。中区のHPということですね。

坂井生活衛生課長：そうです。

福島議員：はい。あとは、健康アシスト事業の(6)ですが、歯科口腔保健対策事業ということで新規事業が上がっておりますが、お口の健康つ

てすごく大事だということで、国も法律ですか、取組が変わると聞いておりますが、こちらは具体的にはどのような取組なのでしょう。

藤本福祉保健課長：中区の歯科医師会の先生などと、色々な講演会とか市民の方をお招きしてレクチャーなどを実施しております。先日も中区の歯科医師会の先生に講演会をしていただきまして、やっと対面で講演会ができるようになりまして、非常にお話も上手で区民の方にも好評でした。できるだけ対面や出張など直接レクチャーする機会を増やしたいと思っております。

福島議員：啓発を主ということで、承知しました。みんなで子育て事業のなかでコンパス事業とか育児支援とか外遊びとか、様々取り組んでいただいている、ありがたいと思うわけですが、例えば各事業の参加者の規模感というか、どのくらいの方がどのように参加しているのか、あるいは新しい方や参加者が固定化していることは若い方々なのであまりないのかなと思いますが、その辺りの参加の状況を教えていただきたいと思っております。開催回数なども分かれば教えてください。

瀬戸こども家庭支援課長：みんなで子育て事業の実績に関しましては、外遊びの応援事業になりますと、令和3年度に関しましては、コロナ禍ではございましたが、4回開催をしております。こちらには、トータルで53組107人の方にご参加いただいております。こちらの4回に関しましては、公園を変えまして、山吹公園、本牧山頂公園、本牧市民公園、千歳公園で、来られる方々の身近な所で参加をいただく形にしております。おでかけスポットマップにつきましては、全部で4,000部作製をしております。転入された方、地域子育て支援拠点、各乳幼児健診の会場などのお子さんがいらっしゃる所に配架し、お取りいただく形にしております。それから、(6)の外国人向け両親教室に関しましては、昨年度、新規ということで、立ち上げておりましたが、コロナの関係で感染防止を鑑みまして、2回とも残念ながら中止ということにさせていただいておりますので、また今年度から開催予定ということになっております。主な、お子さんたちを集めての取組に関しては、以上となります。

福島議員：ありがとうございます。(7)の中国語窓口案内補助というのは、区役所に常駐でいらっしゃるのでしょうか。

瀬戸こども家庭支援課長：中国語窓口に関しましては、本来常駐だと望ましいのですが、中国語通訳のできる方を派遣会社に委託をしまして、来庁者の多い月曜と金曜に関しては1日、火曜日、水曜日、木曜日の週半

ばに関しては、原則半日配置ということで対応していただいております。

福島議員：ありがとうございました。そして、中区愛はぐくみ事業ですが、この事業の心というのか、改めてこの中区愛を、というあたりをもし良ければ区長の想いをお聞かせいただきたいと思っております。

小林区長：福島先生にもおいでいただきました1回目のフォトコンテストの表彰式を、3月末に新市庁舎のアトリウムで行いました。そこで一番優秀だったのが確か三溪園での猫の写真だったと思いますが、あれを見たときに、この取組の趣旨が少し分かり難いところが確かにありました。ただ、中区に着任し2か月経って、この2年間というのは、ものすごく大きくて、我々職員の中でもコロナに関わる人事異動で人が変わっていることを実感しています。例えば、コロナ以来、久しぶりに開催される地域の集会や会議に出席すると、区の職員が皆、同様の集まりに出席したことが無く状況が不明確だったり、あるいは3年続いて開催できていないハローよこはまの進め方が分からないという状況が内部でまですあります。また、地域ではこの間、活動を継続し絆づくりを持ち続けていらっしゃるのだとは思いますが、我々のような外部の者からはそれが分かりづらくなっている状況があったりします。あとは、お手元に配付させて頂きました運営方針の中にも、「住んで良し、働いて良し、訪れて良し」をずっと標語として住民や事業所、来街者への支援に取り組んでおりますが、この2年間、なかなか満足には取り組めなかった部分があり、そうしたところをここで取り戻す、もう一度改めて確認をしていく必要があるのだろうと思っております。そこで、何をきっかけとして取り戻す、あるいは再確認をしていただくと考えた際に、チューリップであるとか、スウィングーといった中区をイメージできるものを使っていこうと。少し「中区愛」という言い方が大上段に構えた言い方になるのですが、地域も含めて色々な場面での絆作りを進めていく位置づけにして、この事業を進めていければと、今は思うようになりました。

福島議員：ありがとうございました。

松本議員：集合住宅の皆さんと、意識の共有をするということがとても大切だという話だったのですが、比較的、管理組合とか、しっかりしたところというのは、そういうきっかけづくりができると思うのだけでも、例えばワンルームマンションとか、外国人が多く住んでいらっしゃる場所というのはなかなかきっかけというのは無いと思うのだけでも、そ

うしたところはどのような形で進めていくのか。

黒部総務課長：まずは先ほどお話ありましたように、共同住宅の管理組合であるとか組織化されたところに、まずアプローチさせていただきまして、あとは実際共同住宅、物自体があることは承知しておりますので、そうしたところにポスティングという形で多言語化のチラシをアレンジするなどして、進めていきたいと考えております。次の段階ですが、避難ナビといったアプリも多言語化が進められると思いますので、QRコードとか、そうしたものに乘せて、分かりやすくという形で将来的には展開できればなと考えております。先ほど福島先生もおっしゃられていた特性を理解するという意味でも、組織化されたところをまずは手を付けさせていただきながら、合わせてポスティングなど、そこにリーチできない、届かないところについて合わせて啓発をしていきたいと考えております。

松本議員：そうしたアウトリーチという観点の中で、吉田中学も含めて外国籍の子供が多い、そうしたところは保護者は日本語が話せない。けれど子供は日本語が話せる、日本の友達もいる、でも家に帰ると中国語で話したり。保護者が日本の社会、地域コミュニティとの接点というのが少なくなっている。災害の時の情報だとか、どういう準備をしていったら良いのかということ、保護者に直接言ってもなかなか難しいと思うので、例えば子供を介して、そういうところへ意識を高めるような働きかけをするということも大切なのかなと思ってます。それと、外国人の方の対応ということで、ある程度意識を持たれた方々は、交流センターとかで情報交換をされているんだけど、なかなかそういう人達ばかりではない。中には、日本語を学ぶために日本に来ている学生、日本語学校の生徒ですが、日本語学校については前もお話をして、中区の中に日本語学校がどのくらいあるのか、そうしたところとの接点はあるのかという話をさせていただいた。そうした実態把握も難しいと思うのだけど、日本語を学んでいる外国の人達、当然そのような人たちも災害が起きれば被災者になってしまう。そうした中で、そのような人たちに、どうやって意識を高めていくかということ、やっぱり学校を通してしか情報発信ってできないと思うので、今一度日本語学校との接点をどうやって作っていくのかということを含めて、是非ご検討いただきたいと思えます。

黒部総務課長：先生のご指摘にあった、子供を通じての防災活動ですが、

3年前に、私共中区役所におきましても、中国語の中学生向けの防災ガイドを作っております。これはイメージとしては中学生が避難所の担い手となり得ますので、そうしたところを促すような内容で、港中の中学生の意見を取り入れながら漫画風に入れさせていただいたのを、3か国語で作っております。こうしたガイドなどを通じて、子供にも意識をしていただいて。避難所といった案内もありますので、子供から親にというのは、アプローチしているところでございます。今年9月に株式会社ペガサスと一緒に「まっ子防災ガイド」というのを作って、それはまだ日本語版しかないのですが、9月に中学生に配るということもありますので、そうしたところをとば口としまして、新たにこうした多言語化なども含めてアプローチをしていかなければいけないなど。また中学生だけでなく小学生にもしっかりアプローチしていくのも大事かと思っております。あとは、日本語学校が、我々の方でも確認しつつ、日本語学校向けの防災というのが、中区オリジナルの言い方が良いのかということもありますが、いわゆる日本なりのと言いますか、地震や台風などという天災に対応するものはどういう制度があるのか、それ以外でも重要な部分がありますので、そうしたところのガイダンス、ご案内はできると思っていますので、検討させていただきたいと思っております。

松本先生：こうした働きかけというものを区の職員の方がやっていくのは、時間とか人員とかの負担が大きいというところなので、是非そうしたところも含めてセンターとかボランティアの方々を活用して、どうやってアウトリーチを広めていくかということ、是非ご検討いただければ幸いかと思います。

小林区長：国際交流ラウンジ等もございますので、市のリソースに加えて、先生からご指摘いただきましたようなことも踏まえて取組を進めていければと思います。よろしく申し上げます。

松本議員：もう1件なのですが、今回の議題とは若干離れてしまうかもしれませんが、最近、野毛の飲食店がだいぶ元気になってきたということもあって、多くの方々にお集まりいただいています。多くのお客様がみえるとそれだけごみも多くなるということで、カラスの大群が野毛に押し寄せています。毎朝、カラスにつつかれて、そこらじゅうに黒いごみが漂っているというのが、野毛の今の状況で。住んでいる人たちも、何とかしなきゃとは言いつつ、飲食店の方はどうしても通いなので。そうすると、業者から買う白いビニール袋だと、カラスはああいう白と

か黒とかのビニール袋が好きらしいです。例えば飲食店の事業系のごみの収集をビニール袋ではなくて、店舗によってはプラスチックの容器で回収しているところも。事業者によってバラバラだけれども、例えば行政の方から回収事業者の方に、回収の方法としてビニール袋ではなくて、別の代替のものが無いのかとか、色々働きかけをしていただければいいのかなという気がするのだけど、良い方法はありますか。

石川資源化推進課長：先生にご指摘いただいた事は、私共の方でもちからがないような対策を、地域の方と連携させていただきながら回収を行っているところではございます。しかし、頂いた件については事業系ごみということもあり、私共の資源の事務所でも体制が難しいところがございますので、一旦持ち帰りまして、こうしたご意見を頂いたということ局に伝えさせて頂ければと思います。その中で対策等を引き続き考えていければと思いますので、よろしくお願いたします。

松本議員：家庭のごみは皆さんルールを守って出しているのだけれども、事業系のごみはルールがあってないようなものなので、比較的3時くらいに仕事が終わると、そのままごみを外に出して帰られてしまう。そうすると、もう、朝には絶好のカラスの餌になってしまうという状況があるので、その辺を何か検討していただければと思うのと、横浜市には落書き禁止条例といったのがあったかと思います。昔、落書きが色々あったときに、どうしても落書きがあると街が汚れて犯罪が増えてくるということから、落書きに対して色々条例を作ったりとか、提案だったかな。野毛も今、落書きが多くなってきているということで、落書きというのは道路上の軽犯罪法違反になるんですかね。個々のお店にはしないで、道路だとか、電柱だとか、そうした所が今かなり多い。よく分からない落書きが野毛に多くなってきているので、注意を促すような方法だとか、何かあれば是非ご検討いただければと思います。

中山土木事務所長：ご指摘の通り、例えば歩道橋ですとか道路施設の落書きとか、通報頂いて私共の整備班で消すという対応をすることも年間数件ございます。年中そうした形で落書きが多いという所については、ご要望いただければ、看板を設置するという事も検討できるかと思いますので、その旨おっしゃっていただければ対応させていただきたいと思っております。

松本議員：分かりました。要望ばかりで申し訳ないが、以上です。よろしくお願いたします。

伊波議員：先ほど出た減災の、行動啓発や共同住宅については、昨年福島先生が政総財の副委員長で、私も僭越ながら入らせていただいて条例改正によってこうした形になってきたのだと思うのですが。本当にそれぞれの地域の課題、築年数とかがあると思うので、しっかり課題をとらえていただければと思います。松本先生も今、落書きの話だったと思うのですが、前からずっと思っていて、毎回この会議で発言しているわけではないのですが、この市議員の会議の時に、警察を入れていただきたいです。中区は4署あるので、県に53だか54だかあると言っていましたけど、横浜市は18区、中区は4署あると。今の落書きは犯罪なのかという松本先生の発言だとか、先ほどの福島先生の放置自転車の啓発のリーフレットとかもありますけど。合わせて中区で作っている自転車のマナーのリーフレット、ああいうのも本来だったら道路交通法を入れていただきたいなというのものもあるし。肌感覚で警察の方々が議員団会議の時だけでなく、横浜市中区の市議員の問題意識ってこういうことなのだということを当番制で良いと思いますが。是非それはご要望させていただきたいと思います。それと、先日ウクライナの関係でみなとみらいに行ってきたのですが、37組66人。中区が一番多いと思いますが、いかがですか。

小林区長：当区で把握しているのは、6月7日時点で横浜市は37組66人ということですが、中区内は12組22人ということで、かなりの割合の方が中区に避難されているという状況になっています。

伊波議員：松本先生は吉田中のことに触れられていましたけれども、中区はそうした、ほかの区に比べると、ブラジルとかは鶴見とか突出するかもしれないですけど、中区中心になっていくと思いますので。国際局中心に色々動いていっていると思いますが、是非寄り添い支援という位置づけで、現場の声を国際局に上げていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。あと、先ほど話もありましたけど、フォトコンテストに今年140件の応募があったとのことですが、そのうち小中学生の割合はどのくらいでしたか。

小林区長：応募数が昨年度は140件で、一般部門が123件ということになっております。

木村地域振興課長：今、区長が申し上げた通りでして、一般部門以外の17件がお子さんの件数ということになります。

伊波議員：前もお伝えしたかもしれないですけど、子供目線の良い写真を

	<p>撮るんですよ。身長も当然低いですけど、その目線で良い所を撮ったりするのを見てきているので、是非、中区の校長会ですとか。子供の時から自分の住んでいる街を知る、中には消防車を撮る子もいるかもしれないですけど、何でも良いと思っていて。連合町内会長賞があったり、町内会長賞があったり、商店街会長賞があったり。是非そうした形で子供たちに参加してもらおうような形をとっていただきたいなど。僕も要望ばかりですけど。よろしくお願いします。</p> <p>小林区長：今週木曜日に小学校校長会、来週の火曜日に中学校校長会に出席することになっておりますので、今、先生にご提案頂いたことを是非お伝えしてきたいと思います。</p> <p>伊波議員：よろしくお願いします。以上です。他にご質問はあるでしょうか。それでは、他にご質問がなければ、本件につきましては、この程度にとどめさせていただきたいと思います。</p>
<p>備 考</p>	